

さとにきたら ええやん

監督・撮影：重江良樹 音楽：SHINGO★西成 プロデューサー・構成：大澤一生（「隣人」「フリーダ」「カーラの道」「石内都、歳るように」） 編集：辻井渥（「隣人」「イタコチグリスに浮かぶ平和」）
音響構成：渡辺文彦（「カンタ」「春の雨」「小体感知症」） 制作協力：神吉良輔（「とっちゃん」）、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力：ビジュアルアーツ専門学校大阪 特別協力：小谷忠典
助成：文部科学省文化芸術振興費補助金 企画：ガーラフィルム 宣伝・配給協力：ウッキー・プロダクション 製作・配給：ノンデライコ 2015 日本 100分 カラー 16:9 5.1ch DGP

日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集い場「こどもの里」——。
人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑いあふれるドキュメンタリー！



www.sato-eeyan.com

子どももやうど。

いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。「日雇い労働者の街」と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。「さと」と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追いました。



わたしはあんたの味方やで！ 現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたかく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の「取り組み」が、これから歩む私たちに問いかけるものとは——？

「こどもの里」とは？

1977年設立の「子どもの広場」を前身とし1980年に現在の場所で「こどもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

子どもたちの 遊びと学び 生活の場です

誰でも利用できます。
子どもたちの遊びの場です。
お母さん お父さんの休息の場です。
学習の場です。
生活相談 何でも受け付けます。
教育相談 何でもできます。
いつでも宿泊できます。
緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
親の暴力にあったら…
家がいやになったら…
親子で泊まる場所がなかったら…
土・日・祝もあいてます
利用料はいりません



◎上映終了後は荘保共子氏（こどもの里館長）による
アフタートークがあります！

◎場所 旭区民センター小ホール 参加費無料
平成29年2月27日(月) 13:00~15:30

主催：くらし相談窓口・旭区民生委員児童委員協議会

問合せ：くらし相談窓口旭区役所2階 23番窓口 TEL/FAX：06-6953-2380